トラック部会

地域密着で
独創性ある架装をユーザーに提供

1．部会概要

部会発足は1948年の部会制度発足と同時であり、長い歴史を持ち、主に平ボデーを製作する会員で構成されいる。荷役作業の省力化や利便性の向上等、お客様の要望に応じた独自の架装を施す地域密着型の企業が多い。現在の会員数は54社である。

2．組織

2008年度役員は次のとおり。

部 会 長　堀尾　浩二（不二自動車工業㈱取締役社長）
副部会長　落合　　轟（司工業㈱取締役社長）
〃　　山田　和典（山田車体工業㈱取締役社長）
〃　　藤田　万久（フジタ自動車工業㈱取締役社長）

トラック部会
- 業務委員会
  委員長　田村　元
  （㈱浜名ワークス取締役社長）
- 技術委員会
  委員長　川本　裕治
  （㈱トランテックス開発設計室課長）
- ＰＲ委員会
  委員長　矢島　仁
  （埼玉自動車工業㈱取締役）
- 車輌運搬車分科会
  分科会長　田村　慎一
  （㈱浜名ワークス取締役会長）

3. 活動内容

多様な用途の架装車両の法規対応調整や動向を把握して情報提供する活動を行っている。

1）経営改善のための情報の共有化
・需要動向や市場全体状況の把握

2）環境への配慮と情報の共有化
・車体工業会環境ラベルの貼付率向上
・商用車架装物の解体情報

3）各種法規動向への取り組み対応
・大型後部反射器の基準改正に伴う取り付け検討
（2007年4月以降から適用し、2011年9月以降取付義務化）
・大型車用再帰反射材の基準化（任意規定）に伴う取り付け検討
現在、再帰反射材貼付のＱ＆Ａ集作成中

■ 発行物

「トラックボデー普通荷台取扱説明書」（会員専用）

平荷台構造の一般的な正しい取扱いと、日常の保守、点検項目、軽度の修理要領をまとめた。荷台の構造、艤装品等の仕様については各車体メーカー毎に若干異るので、共通要素を主に記載した。

トラック部会

堀尾 浩二 部会長に聞く

（不二自動車工業㈱ 取締役社長）

新しい秩序に従い、固有技術の向上と蓄積を一層活発に

●最近のトラック部会を取り巻く環境について教えてください。

2008年度のトラック部会員の販売は、国内景気や世界経済の激変に翻弄されています。

国内バブル景気崩壊の後遺症であるデフレ不況に続き、石油や原材料高騰、更に昨年夏からは、米国発の「金融恐慌」が襲ってきました。

「落ち着いて経営を考えるゆとりがない」というのがトラック部会員はじめ業界の皆様の共通認識ではないかと思います。

これからの景気の動向が全く見当がつきません。頼りになるものがほとんどない中で、「雇用調整助成金」に頼り、朗報はないかと待ち続け、手立てを探っている毎日です。

●トラック部会の主要課題と取り組みについてお聞かせください。

昨年までの課題は、「不正改造車改修対策」でした。トラック部会員、バン部会員は率先してこの問題に向かいあい、自動車流通の商流の狭間で必死に取り引き関係の正常化、違法部分の改修を進めてきました。これも一定の成果が得られ、最終段階に入りました。

これからは法令遵守の新しい秩序に従った製品作り、市場開拓が課題であります。トラック架装業界は、１台限りのオーダーメイドが基本の営業スタイルですが、ここにわれわれの底力を発揮して車体工業会のけん引役を果たさなければならないと考え、取組んでいきたいと思っています。

また最近は、地球温暖化対応や環境負荷物質削減などの環境対策推進も新たな課題となっており、部会としても対応検討しています。

●今後の計画と抱負についてお聞かせください。

固有技術の向上と蓄積をいっそう活発にすることです。

トラック部会所属の会員は、歴史的にも現在も「一品仕様のオーダーメード」を生業にしています。「大量生産や繰り返し生産」を望んで来ず、一品仕様が生き甲斐と誇りです。

この不況を乗り越えるためには、規格品の大量生産、大量販売の弱点を知り、われわれのようなお客様に密着した一品料理の強みを発起することが重要と思います。

Profile

◆業務歴
1967年　3月　不二自動車工業㈱　入社
1982年　8月　専務取締役
1985年　7月　取締役社長
◆車工会歴
2001年　4月　トラック部会長　就任
〃　　5月　理事就任
2003年　7月　副会長就任（トラック部会長兼務）
◆趣味・嗜好
読書（歴史・時代ものが好き？）、カラオケ（セミプロ級）、ゴルフ（付き合い程度）
◆人物寸評
堀尾社長を一言でいえば「織田信長」でしょう。前例に捉われずに、理想に向かって突き進む気迫と根性はすごいものがあります。
破壊と創造を常に繰り返しながら不二自動車丸を引っ張り、車工会の場でも活躍して頂けるものと、確信しています。（ある同業会員より）